

改訂版

授業づくりの教科書

社会科

授業の教科書

5・6
年

有田先生が見通していた 新しい社会科の授業づくり

佐藤 正寿

1 有田先生が実践していた「主体的・対話的で深い学び」

1988年の2月の筑波大学附属小学校の公開研修会。

当時大人気の有田先生の授業には、全国から数百名の参加者が集まっていた。特別に設けられた会場では有田先生の授業への期待感のエネルギーが満ち溢れていた。

公開されたのは、3年生の「町のうつりかわり」の授業である。

授業開始から、子どもたちの熱気ある発言に圧倒される。友だちの意見を聞くと、今度はそれに対して自説を主張する。有田先生は、子どもたちの発言をうなずいたり、驚いたりしながら受け止めつつ、ゆさぶり発問を行う。子どもたちの思考はさらに活性化し、発言内容がどんどんと深まってくるのが、理解できた。

若手教師だった私は、この授業に衝撃を受けた。「どのようにしたら、あれほど追究する子たちが育つのだろう」、「どのようにしたら子どもたちが深く考える授業ができるだろう」…私だけではなく、多くの参観者も同じことを感じたと推測する。

「小学校学習指導要領（平成29年告示）総則編」において、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善を行うことが示された。その趣旨を読むと、この学習指導要領よりも30年近く前に、有田先生が「主体的・対話的で深い学び」のモデルとなるような授業をすでに実践されていたことに驚く。その点では、有田実践を知ることは、新しい学習指導要領で求められている授業を実現するためのヒントになると考える。

2 どのような授業づくりを行うか

(1) 基本は問題解決的な学習

主体的な学びの実現のためには、子どもたちが学習問題を発見し、解決のために見通しをもって取り組むことが大切である。いわゆる「問題解決的な学習」への取り組みである。

問題解決的な学習とは、「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 社会編」においては、「単元などにおける学習問題を設定し、その問題の解決に向けて諸資料や調査活動などで調べ、社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして表現し、社会生活について理解したり、社会への関心を高めたりする学習」と定義づけられている。

以下の①～④の学習過程がこの定義を整理したものである。また、それぞれの過程を充実させる教師の働きかけをその下に記してみた。

● 1つの単元について

①問題を設定する

- ・子どもたちが強い問題意識をもつしかけをする
- ・単元の目標との関係に留意しつつ、子どもたちの表現を生かした問題文にする
- ・問題に対して予想をさせ、予想に基づいて問題を解決する方法を見通させる

②問題解決のための調べ活動を行う

- ・問題解決に適した情報収集活動に取り組ませる
- ・各活動に応じた学習技能を高める指導を行う

③問題について考察したり、選択・判断したりする

- ・情報を整理・分析させ、問題を解決するための考えをもたせるようにする
- ・子どもたちの学びを深めるための工夫をする

2 どのような授業づくりを行うか

(1) 基本は問題解決的な学習

主体的な学びの実現のためには、子どもたちが学習問題を発見し、解決のために見通しをもって取り組むことが大切である。いわゆる「問題解決的な学習」への取り組みである。

問題解決的な学習とは、「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 社会編」においては、「単元などにおける学習問題を設定し、その問題の解決に向けて諸資料や調査活動などで調べ、社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして表現し、社会生活について理解したり、社会への関心を高めたりする学習」と定義づけられている。

以下の①～④の学習過程がこの定義を整理したものである。また、それぞれの過程を充実させる教師の働きかけをその下に記してみた。

● 1つの単元について

①問題を設定する

- ・子どもたちが強い問題意識をもつしかけをする
- ・単元の目標との関係に留意しつつ、子どもたちの表現を生かした問題文にする
- ・問題に対して予想をさせ、予想に基づいて問題を解決する方法を見通させる

②問題解決のための調べ活動を行う

- ・問題解決に適した情報収集活動に取り組ませる
- ・各活動に応じた学習技能を高める指導を行う

③問題について考察したり、選択・判断したりする

- ・情報を整理・分析させ、問題を解決するための考えをもたせるようにする
- ・子どもたちの学びを深めるための工夫をする

④社会への理解と関心が高まる（学びのまとめと発展）

- ・自分たちの学びをまとめ、振り返る場面を設定する
- ・学びを発展させ、生活を改めたり、社会に参画したりする意欲を育てる

(2) 話し合い活動に必須のすぐれた発問・指示

この中で、子どもたちの対話的な学びが多く見られるのは話し合い活動である。そこで重要な役割を果たすのが、話し合い活動を焦点化する教師の発問である。

本書には、話し合い活動を活性化するための有田先生の発問が、そのままの文言で書かれている。たとえば、5年の『『山にのぼるキャベツ』とは、どんなもの』には次のような発問・指示が示されている。

- ① 孺恋村のキャベツの出荷時期は、いつ頃か調べて、帯グラフに書き込みなさい。
- ② よそでできない時期に孺恋村でキャベツができるのはどうしてか。
- ③ どうしてかなと、気づいたことをあげなさい。
- ④ どうして、5回に分けて植えて、しかも、ずらしているのでしょうか？
- ⑤ ずらしたくなくても、ずらさなければならないのはなぜでしょう。

①の指示で子どもたちは、孺恋村のキャベツ作りは他の地域と違う時期に行っていることに気づく。②は子どもたちの疑問を受けての発問であり、③の指示で子どもたちの追究活動が行われる。そこで子どもたちが新たに気づいたのが、5回に分けて種まきをしていることである。④の発問で新しい課題に対して、子どもたちは様々な予想をする。そして、⑤の発問で「山にのぼるキャベツ（時期によって植える畑の高さを変えていえる）」の意味に気づくのである。

このように発問や指示、その構成を工夫することによって、話し合いの内容は焦点化され、活発な話し合い活動が可能となるのである。

(3) 学びを促す教師の指導技術

学びの質を高めるために、授業における教師の授業技術は不可欠である。たとえば、先の発問の技術の他に、板書やノート指導の技術、発言指導や机間指導というように、授業技術はいくつも存在する。社会科においては、資料提示の授業技術が存在する。たとえば、実物資料を準備した際にどのように提示するか。教師が子どもたちに追究させたい中心的な資料を提示する際にどのように見せるか。同じ資料であっても、その提示のしかたによって、子どもたちの反応は異なってくる。

有田先生は、本書で「グラフを提示するとき、最も大事なところ、どうしても見せたいところを、わざとぬいた資料をつくる」と述べている。これは、ICTによる資料提示でのマスキング（隠す）技術と同じ考え方である。隠れている部分に子どもたちは注目し、その内容を予想する。いわば、学習内容の焦点化である。最初からその部分が示されていて気づきを発表させるより、子どもたちの思考は活性化する。このような授業技術は、子どもたちの学び方が変わっても不易の部分である。

3 子どもたちの学習技能の育て方

(1) どのような技能が必要か

「主体的・対話的で深い学び」において、育成すべき資質・能力として「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の3つの柱が示された。このうち「知識・技能」は「社会的事象等に関する理解などを図るための知識と社会的事象等について調べまとめる技能」として具体的に示されている。

有田先生は、追究の鬼を育てる過程で学習技能を身に付けることの重要性を指摘している。そのポイントとして、『有田学級で育つ学習技能』

(1991・明治図書)において次の4点を指摘している。

- ・「はてな？」発見の技能は、いつごろ、どのような場で、どのようにして育てていけばよいか。
- ・発見した「はてな？」を、どのように調べ、追究していくようになるか。
- ・「追究の鬼」にふさわしい表現力を育てるにはどのようにしたらよいか。
- ・学習技能を育てる授業はどうあるべきか。

今後育成すべき資質・能力として示された「調べまどめる技能」と同じ内容を30年近く前にすでに指摘している。その先見性には驚くばかりである。

(2) 学習技能を育てる授業

有田先生は「学習技能を育てる授業はどのようにあるべきか」という問いから、その具体例を提案してきた。本書にも、「この地図は、何を表しているでしょう」「資料を見るときは、どんな順序で見るとしたか」「絵からわかることを書きなさい」といった学習技能を育てることを意図した内容がある。

授業の中で、「何を使って調べますか」「その根拠は教科書のどこに書かれていますか」「まとめ方で気をつける点は何ですか」といった学習技能に関わる発問が、教師から投げかけられることで、子どもたちは「このように調べればいいんだ」「注目する点は資料のここだ」というように、その学習技能を自覚するようになる。

(3) 見方・考え方を働かせるために必要な学習技能の向上

新学習指導要領の社会科の目標には「社会的な見方・考え方を働かせ」が、各学年の目標には「社会的な事象の見方・考え方を働かせ」という文言が入った。この場合の「社会的な見方・考え方」とは「視点や方法(考

え方)」であり、「社会的な見方・考え方を働かせ」とは、「視点や方法（考え方）」を用いた学び方を表すと共に、子どもたちの「社会的な見方・考え方」が鍛えられていくことも表現している。

「視点や方法」は自然に身に付くものではない。教師が意図的に学習技能を鍛えないと力はつかない。たとえば、資料の読み取り方や情報の分類の仕方、適切に考えを表現する方法などを、繰り返し行って習熟することが必要である。その過程で学習技能の質が向上することで見方・考え方をより適切に働かせることができるようになり、そのことが深い学びにつながるのである。

4 より「深い学び」にするために

(1) ノートに自分の考えをまとめることを重視する

1 単元や 1 単位時間の終末は、学習をまとめ、振り返る場面である。学習問題に対するわかったことを表現したり、その発表から学び合ったりする。また、学習を振り返って、できるようになったことを自己評価し、学びの達成感を味わう場面でもある。有田先生の授業（1 単位時間）の終末は、まとめのノートの時間であった。5 分間を確保していたという。そこで必ず書くべきことは、次の 3 つであった。

- ① 本時で学習した内容の整理
- ② ▲印などをつけて、本時の学習に対する自分の考え（感想・疑問・反論など）を書く
- ③ 新しく発生した問題

特徴的なのは、②と③である。②の自分の考えをきちんと書かせることで、自分なりの新たな「見方・考え方」ができ、学びが深まったことを子どもたちは自覚する。それは、次の学習で生かされることになるであろう。また、③の「新しく発生した問題」は自分が今後追究すべき対

象となる。新たな問題を発見することによって、子どもたちの追究のエネルギーは持続する。

(2) オープンエンドで学びを広げる

先のノート指導に表れているように、有田先生は授業の終末に新たな問題を引き出し、その追究のための意欲を高めることに力を入れた。子どもたちは、次の授業まで新たな追究活動に取り組み、それが新たな学習で生かされる。いわゆる授業のオープンエンド化である。一般的な授業では学習問題に対するまとめを確認して終わるのと対照的である。

このような授業のオープンエンド化は、追究活動を常に積み重ねることになり、結果的により深い学びに結びつく。それだけではなく、子どもたちが主体的に学び続ける資質・能力を育てるベースとなるのである。

以上、有田先生の実践と主体的な学びの実現との関係を考察してきた。改めて感じるのは、その実践の意図するところが新学習指導要領の目指すところと重なっているという点である。「有田先生の数々の主張に時代が追いついた」といえよう。

本書にはその主張のエキスが詰まっている。1時間1時間の授業プランを新学習指導要領の授業づくりの教科書として学んでいきたい。

○参考文献

- ・文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）総則編」
- ・文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編」
- ・有田和正（1991）『有田学級で育つ学習技能』（明治図書）
- ・有田和正（1996）『新ノート指導の技術』（明治図書）
- ・有田和正・教材・授業開発研究所（2014）『今こそ社会科の学力をつける授業を』（さくら社）

I この本の基本的な考え方

新しい授業の創り方

- ① 授業とは何か 16
- ② おもしろい社会科授業を創る9つのポイント 19
- ③ 1時間で学力をつけるために 22

この本の使い方 26

II 5年生の授業

わたしたちの国土

- 1 日本の気候の南北のちがいは？ 28
- 2 富士山に見える日は何日くらい？ 30
- 3 根室地方の人びとのねがいは、どんなことか？ 34
- 4 流氷は「海のフトン」って本当か？ 36
- 5 根室半島は、どうして植物のようすがちがうか？ 38
- 6 根室市の生活に冷蔵庫が必要か？ 40
- 7 沖縄県に「こたつ」は必要か？ 42
- 8 宮古島の「地下ダム」とはどんなしくみ？ 44
- 9 沖縄のさとうきびは、どうして曲がっているのか？ 48
- 10 さとうきびの節の間隔がちがうのはなぜか？ 52
- 11 こんな寒い土地に人が住んでいるのだろうか？ 54
- 12 世界一の豪雪地域はどこだろう？ 56
- 13 「雪国」というのは、日本の国土のどのくらいあるか？ 58

- 14 どうして雪おろしが必要か？ 60
- 15 雪国でいちばん困ることは何？ 62
- 16 「池」と「湖」はどうちがうか？ 64
- 17 東京湾と鹿児島湾のちがいは？ 66
- 18 日本海側と太平洋側の気候のちがいは？ 70

わが国の食料生産

- 19 東京 23 区に「専業農家」があるか？ 74
- 20 寒い地方で米がよくとれるのはなぜか？ 78
- 21 高原で野菜づくりがさかんなのはなぜか？ 80
- 22 「山にのぼるキャベツ」とは、どんなもの？ 82
- 23 孺恋村ではどのようにして、「連作障害」を少なくしているか？ 86
- 24 ハウスいちごの花粉つけは誰がするの？ 88
- 25 「いちごが富士登山する」って本当？ 90
- 26 青森県がりんごの生産日本一になったわけは？ 92
- 27 みかんとりんごのとれる県はちがう？ 94
- 28 海岸沿いにビニルハウスが並んでいるのはどうしてか？ 98
- 29 野菜をだますのが日本一うまい県はどこか？ 100
- 30 別海町で酪農がさかんなのはどうして？ 102
- 31 赤身と白身はどちらが浮魚でどちらが底魚か？ 104
- 32 網は魚をとるだけだろうか？ 106
- 33 沖縄の「もずく」養殖は世界一か？ 108

わが国の工業生産

- 34 日本の自動車のつくり方は？ 111
- 35 自動車工場を支える関連工場はどんな仕事？ 115
- 36 ジュース工場を、山の中につくったのはなぜか？ 117

くらしを支える情報・身近な環境を守る

- 37 わたしたちのくらしを支える情報とは？ 119
- 38 森林はわたしたちのくらしにどんな影響を与えているか？ 123

Ⅲ 6年生の授業

くらしと政治

- 1 選挙が厳密に行われるのはなぜか？ 126
- 2 小学生も税金を納めているか？ 130

大昔の人々のくらし

- 3 世界で最初に「土器」を発明したのはどこの国か？ 132
- 4 縄文人が貝掘りをしたのは春夏秋冬のいつか？ 134
- 5 縄文時代の平均寿命はどのくらいか？ 138
- 6 銅鐸の絵は何をしているのか？ 140
- 7 銅鐸の絵からわかることは？ 142
- 8 2つの金印 どちらが本物か？ 144
- 9 ヒミコはパンツをはいていたか？ 146
- 10 「仁徳天皇陵」は仁徳家の墓か、仁徳天皇の墓か？ 148
- 11 小野妹子はどうして全権大使になれたのか？ 150

貴族の世の中

- 12 右手で扇を持って顔をかくしているわけは？ 154
- 13 どうして壁土のような厚化粧をしたのか？ 156
- 14 寝殿造にトイレはあったか？ 158
- 15 貴族たちの年収はどのくらいあったの？ 160

武士が活躍しだした時代

- 16 武士の館に「いざ鎌倉」があるか？ 162
- 17 元軍は日本を攻める前から負けていた？ 166
- 18 武士が戦場で旗を持っているのはどうして？ 168

戦国時代

- 19 火縄銃の有効距離はどのくらいか？ 170
- 20 長篠の戦は、「10秒の勝負」であった？ 172
- 21 戦国時代の合戦は「雨天順延」？ 174
- 22 ふんどし一つの武士が戦っているのはどうしてか？ 176
- 23 農民は合戦を「見物」したって本当？ 178
- 24 「一寸法師」のモデルは誰か？ 180
- 25 検地の絵は「下田」か「下下田」か？ 184

江戸時代

- 26 江戸時代に「交通事故」はあったか？ 186
- 27 「ずいずいずころばし ごまみそずい」の歌の本当の意味は？ 188
- 28 江戸時代の旅人が「七ツ立ち」したのはなぜか？ 190
- 29 大名行列は、どのように行われていたのか？ 192
- 30 大名行列の時期は決まっていたか？ 196
- 31 大名行列中、殿様がトイレに行きたくなくなったらどうしたか？ 198
- 32 大名が「民宿」に泊まったって本当？ 200
- 33 大名行列の供人や持ちものはレンタルですませた？ 202
- 34 大井川に橋をかけなかったのはなぜか？ 204
- 35 静岡がお茶の特産地になったのは大井川に橋がなかったから！ 206
- 36 三井高利は番傘で大もうけしたって本当？ 208
- 37 ペリーはどのようにして遠回りしてきたか？ 210

明治時代

- 38 県名と県庁所在地名がちがうところがあるのはなぜか？ 214
- 39 「名字」をつけた本当のねらいは何か？ 216
- 40 明治時代「兵役の義務」をのがれる方法があったのか？ 218
- 41 官営工場1号が富岡につくられたわけは？ 220
- 42 ノルマントン号事件とはどんなことか？ 222
- 43 条約改正はノルマントン号事件から始まった？ 224

明治・大正・昭和時代

- 44 「第二戦国時代」って、いつのこと？ 226

昭和時代

- 45 太平洋戦争と天気予報の関係は？ 228
- 46 駅弁包装紙とは何か？ 230

世界の中の日本

- 47 日本が75年間戦争しなかったわけは？ 234
- 48 日本の大使館ってどのくらいあるの？ 238

引用・参考文献・情報 244

◎本書は『授業がおもしろくなる 21 授業のネタ 有田社会・高学年』（日本書籍 1999年）
をもとに、全編にわたり再構成・再編集したものです（2012年初版、2020年改訂）。

イラスト・図版：しらみずさだこ

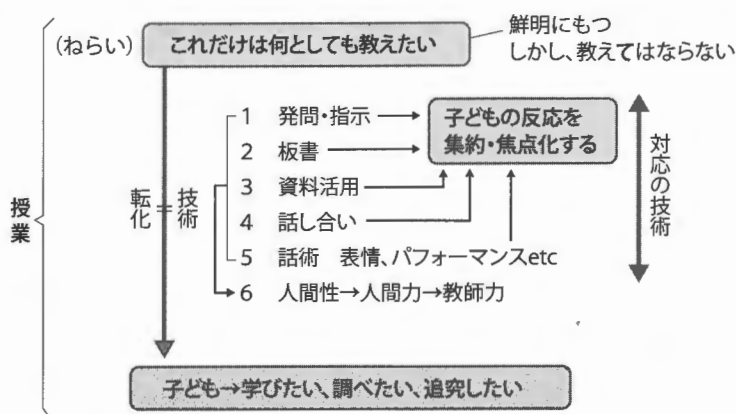
I

この本の 基本的な考え方

新しい授業の創り方
この本の使い方

新しい授業の創り方

1 授業とは何か



(1) 授業で最も大切なこと

授業は、「これだけは何としても教えたい」という内容を、深く広い教材研究によって「鮮明につかむこと」、これが第一である。これさえ確かにつかめば、授業は70%成功したも同然である。

このとき大事なことは、「教えてはならない」ということである。子どもに学ばせなければ学力にならないからである。

それで、「これだけは何としても教えたい」という内容を、「子どもが学びたい、調べたい、追究したい」というものに転化するのである。これが授業の本質である。

「転化」するには、最小限6つの技術が必要である（上図参照）。

この6つの技術は、教材（ネタ）から授業の流れを示したそれぞれの項で具体的に明らかにしているので、各項目をていねいに読んでいただきたい。

(2) 授業は勝負である

授業は勝負である。教師と子どもの真剣勝負であるということである。授業の計画をたてる時、「何で子どもと勝負するか」と頭を悩ます。「勝負する」ということは、これによって、子どもの思考を飛躍的に発展させたり、視野を大きく開いたりすることである。

一人ひとりの子どもが、確かに問題をもち、予想をたて、追究の方向が見え、問題追究に熱中するようになったとき、勝負が成立したといえる。

そして、追究の途中で、子どもの考えを大きくゆさぶり、目を開かせ、より確かな統一性のある考えに発展させることができれば、より確かに勝負が成立したといえる。

(3) 勝負は授業前にきまる

勝負を成立させるためには、

- ①子どもが、今どんな考えや能力をもって授業に臨もうとしているか、どんな知識や経験をもっているのかつかむこと。
- ②子どもの考えに対して、どんな教材（ネタ）をぶつければよいかつかむこと。
- ③ネタをぶつけるとき、どんな発問や指示をすればよいか考えること。

最低限、この3つのことが必要である。

ユニークな、子どもがおもしろがる授業をするには、よい教材（ネタ）を提示することが一番のポイントである。

ネタには、子どもの思考のすじ道をふまえ、しかも、本質に迫っていく契機が含まれていることが必要である。なんとしても、子どもがネタにひっかかるようにしなければならない。ひっかかって、追究していく過程で、より本質に迫っていくような内容を含んでいなければならない。

つまり、おもしろいだけではダメで、内容に深さと発展性がなければならぬ。

こういうよいネタをたくさんストックしておいて、子どもの状況に応じて自由自在に勝負してもらいたい——という考えで、本書をつくることにしたのである。

つまり、子どもが意欲的に追究する授業づくりをするために、よいネタをまとめて提示してみようと考えたのである。

ネタは、おもしろいだけではなく、奥深さ・発展性・関連性があり、授業を次々と深化発展させるものを提示している。

さらに、本書をそのまま教室にもち込んで、授業にすぐ役立つこともできる。ネタと主要な発問、展開順、子どもの反応を、見開きにまとめているからである。この中からよいものを選んで授業に取り入れてほしい。

しかし、私の真のねらいは、授業にすぐ役に立てることではなく、本書をもとにして、多くの方々が「ネタ開発」をめざすようになることなのである。ネタ開発をすることによって、教師としての力量を高めてほしいのである。

(4) 授業のつくり方を変えよう

子どもたちは、おもしろいこと、楽しいことが好きである。

授業でも、少しおもしろいと身をのり出してくるが、おもしろくないとソッポをむく。子どもたちに、社会科の力をつける近道は「社会科の勉強はおもしろい」と思わせることである。

このためには、なんととっても、おもしろいネタをみつけて、授業にもちこまなければならない。なぜなら、ネタのよしあしが、授業の死命を制するからである。

これが「材料七分に腕三分」といわれるゆえんである。

材料が悪ければ、どうにもならない。くさった魚は、どんな上手な料理人でも、料理のしようがない。逆に、材料さえよければ、腕は少々悪

くても、なんとか食べられる料理になる。

これは、授業でもまったく同じことである。

これまで授業を計画するとき、「目標→内容→方法」という順序で考えてきた。これが、オーソドックスな手順だと考えられてきた。

この思考パターンをくずさないと、おもしろい授業は創造できない。

立派な目標を考える前に、どんなネタで勝負するか考えるようにしたい。まず、おもしろいネタ、子どもをゆさぶれるネタを考えよう。ネタが決まれば、目標も、そして、資料や展開順・方法も自然に決まってくる。

「授業のネタを開発する」ということは、結局、ネタ（教材）と目標と方法を考えることに、自然に発展するということである。

本書を契機にして、「ネタ開発」に取り組むようになってほしい。

2 おもしろい社会科授業を創る9つのポイント

おもしろい社会科授業のために「授業のネタ」を創るには、いくつか考えておくといふことがある。それを挙げてみよう。

①「子どもの常識（固定観念）をくつがえすもの」を考える

子どもが考えていることを、ゆさぶったり、ひっくり返したりするようなネタを準備して、提示のしかたを少し工夫すれば、子どもは意欲的に動き出す。子どもは、なんでも食いはない。ゆさぶられたものやひっくり返されたものを「おもしろい」と思い追究する。

子どもの固定観念をくつがえすネタをつくるには、子どもが今どんな考えをもっているのかをつかむことがポイントになる。

例えば、根室市の生活に冷蔵庫が必要かとたずねると、「必要ない。寒いから。冷蔵庫より気温が低いから」などという。ところが、根室では、物が凍らないようにするために冷蔵庫が必要だとわかると、びっくりして家のつくりなどを調べはじめる。

世界一の豪雪地域が日本であることや、雪国が日本の国土の 53.3% もあることに固定観念をくつがえされる。

②「わかっている」と思っているのに、実は「わかっていない」というものを考える。

例を挙げるとわかりやすい。「寝殿造にトイレはあったか？」と問うと、「それはあったでしょう」と言う。「実はなかったのだ」というと、「ウソッ」と言う。

歴史にも常識と思っていることが実は非常識であったことがたくさんあることがあって驚く。何しろ歴史の 99.9% は仮説だからである。

学習するということは固定観念がこわれていくことでもある。

③子どもの意表をつくものを考える

子どもたちの視野にまったく入っていないネタを開発することである。そうすれば、必ず驚き、意欲を起し、追究しはじめる。

例えば「雪国といわれる地域は、日本の国土の何%くらいあるか」というネタなどは、子どもの意表をつく典型的なものである。「地中海は、世界中にいくつかあるか」という問いや「マンゴーは、どんな実のつき方をしているか」なども意表をつく。

「ヒミコはパンツをはいていたか」というネタなどは、笑いとともに調べはじめるネタである。

こういうおもしろい、意表をつくネタを考えるくせをつけることである。

④子どもの目を開くものを考える

前の項によく似ているが、子どもは知っているようで知らない。知らないようで聞きかじっている。そういう状態にゆさぶりをかけ、新しい認識、より深い認識に至らしめるネタを考えることである。

例えば、「日本には富士山がいくつあるでしょうか？」と問いかけると、

「何を言っているんですか。1つにきまっているじゃないか」と怒ったように言う。

そこで、「富士山といわれる山は397あり、日本地図で確認できる富士山は72個あります」というと、「そんなバカなことはない」と反論する。日本地図に書き込んだものを見せ、北海道に「利尻富士・知床富士・阿寒富士・北見富士・美瑛富士・蝦夷富士」の6つの富士山があることを話すと驚く。

「そういえば、なんとか富士とか聞いたことがある」などと言い出し、日本人がいかにか「富士山」を好きかに目を開くことができる。

⑤事実を見直さざるを得なくなるものを考える

身のまわりの社会事象は、見ているようで見ていないものである。そこをつくネタを提示すると、子どもは事実を見直すために、いや見たくなって動き出す。

魚の切り身を見ただけで、魚の形や色、住んでいる場所、泳ぎ方、その取り方までわかることを知ると、魚屋へ出かけて本物を見たり、調べたりするようになる。

⑥新鮮な出会いをさせるものを考える

ごみの学習をやっているとき、「君たちの家では、わざわざお金を出してごみを買ってるね。だから、ごみが増えるのだよ」などとゆさぶると、「そんなバカなことはない。ごみなんか買うわけがない」などといいながらも、調べはじめる。見方が新鮮になる。「ごみを買うとはどんなことか」という観点で見直すことになるからである。

大名行列のときは、「下に、下に」とかけ声をかけていたと思っている。テレビやマンガの影響であろう。これに対して、「『下に、下に』とかけ声をかけてよかったのは、将軍と御三家だけです。他の大名たちは、どんなかけ声をかけたでしょう?」と問いかけると、「へえー」と驚いてしまう。

⑦大事なところをわざとぬいた資料をつくる

グラフを提示するとき、最も大事なところ、どうしても見せたいところを、わざとぬいた資料をつくる。こうすれば、いやでも気づき、印象に残る。

絵などでも、わざと大事なところを書かないでおく。

こういうことができるから、写真より絵の方が有効なことがある。

⑧子どもが体当たりして追究できるものを考える

こどもたちが、手でさわりながら調べたり、足をつかってあちこち調べてまわることを楽しめるネタを考えることである。「1軒の店がよく売れるか、商店街のように店が集まっている方がよく売れるか」などは、子どもたちが体当たりして調べるのによいネタである。

⑨子どもの生活や生き方と深く結びついているものを考える

子どもの生活と結びつかないものは理解しにくい。トイレや水のように生活に直結しているものは、体験を通して理解できるし、子どもの考え方や生き方も深くかかわってくるので価値が大きい。歴史上の人物の生き方を追究するネタ、例えば「一寸法師」のようなものを考え、これから信長・秀吉・家康などの生き方を追究させるように導くのである。

3 1時間で学力をつけるために——教師に必要な心得

本書は、1つの教材（ネタ）を1時間ないし3時間位で学ぶように構成している。いうならば、1つのネタで、1時間分の学力をつけなければ授業をする意味がないのである。

毎時間、真剣勝負できるネタを提示しているので、これで学力をつけてほしい。そして、生活化をはかり、「実力」になるよう発展させてほし

いのである。

(1) 授業をきっちり行うこと

「この程度の授業ならばくでもできます」と若い教師に言われたことがある。1時間できてダメなのである。毎時間、「ある一定以上の授業」を継続できることがポイントである。なぜなら「授業は布石の連続」であるからだ。

「授業とは何か」で示したことを毎時間きっちり行うことが何よりも大切なことである。

授業はスイカである。単元の一番おいしいところから切り込むと「もっと食べたい」と言って、おいしくないところもつい食べてしまうのである。

(2) 教材研究をきっちりする

常日頃から教材研究をするくせをつけ、おもしろい教材（ネタ）を見つけることである。それを毎時間提示すれば、子どもは真剣に追究し、学力がつく。

この手助けをするのが本書である。何しろ今の教師・学校は忙しすぎる。教材研究する暇がない。しかし、読むくらいはしっかり読んで、教材・ネタを使ってほしい。そうしないと力はつかない。

沖縄で、「マンゴーは、どんな格好でなっていますか」と尋ねてみたが、わかる人はほんのわずかであった。しかし、これを契機にして、いろいろな果物の実のつき方を追究するようになったのである。応用がきくものが学力として質が高い。

(3) 指導法の研究をする

「授業とは何か」の表に、6つの技術を精選して提示している。これを日々の授業でみがいていくのである。

特に「子どもの反応を集約・焦点化する」ことがむずかしいので、気をつけて指導していく。すると、しだいに上手になり、子どもたちも協

力するようになってくる。

平成24年度からの中学の社会科教科書を見て驚いた。小学校に負けないくらい「学習方法」を重視しているのである。教えるだけでは受け身で学力がつかない。子どもが自ら学ぼうとすることが大切なことに、中学も気づいたのであろう。

子どもに「いかに意欲的に学ばせるか」ということが、これからの授業のポイントである。

(4) 教科書を見直す

中学校の教科書が変わってきていることを述べたが、小学校は以前から子どもが学びやすいように、「はてな？」を発見できるように、「調べることができるように」工夫がなされている。

教師の読み取る力によって、教科書は深い内容を表したり、浅い内容を表したりする。

わたしが今、先生方に紹介しているのは、「教科書の中に、ハイテク技術がちりばめられているので、これを見つけて子どもをゆさぶると、子どもの教科書を見る目が変わり、学習意欲が出てきて、学力もつく」ということである。

例えば、官営工場の富岡製糸場（明治5年）は、世界一のハイテク技術を備え、それを404名の女工に指導したのである。日本の養蚕技術書『養蚕秘録』（江戸中期）は、幕末にフランス語に翻訳されるほど完成度が高く、まさに世界一のハイテク技術であったのである。

ただ、教科書にはこんな言葉では書いていない。それをしっかり読み取るのである。これが楽しいことこの上なしである。

(5) 「指導する」ということを意識する

①見えない（わからない）→見える（わかる）

このように子どもを容容させることが、指導するということの第一である。習得すべきことを習得させ、活用すべきことを活用させて、探究・

追求へ発展させることである。

②多様な学び方を体得させる

3年生の子どもが、三浦半島のみかん作りを調べようとしたが資料がない。そこで、愛媛や和歌山のみかん作りの本を応用して調べた。3年にしてこんなことができるのである。

5年生で地下資源は足りているか余っているか調べようとしているとき、1人の子どもが「貿易」の本で調べていた。「ちがうんじゃないの?」と言ったら、子どもいわく、「足りなければ輸入しているはずだし、余っていれば輸出しているはず。だから貿易から調べた方がわかりやすい」と言ったのである。

私はこの調べ方に驚いて、みんなを集めて紹介した。これで調べ方が変わってきた。

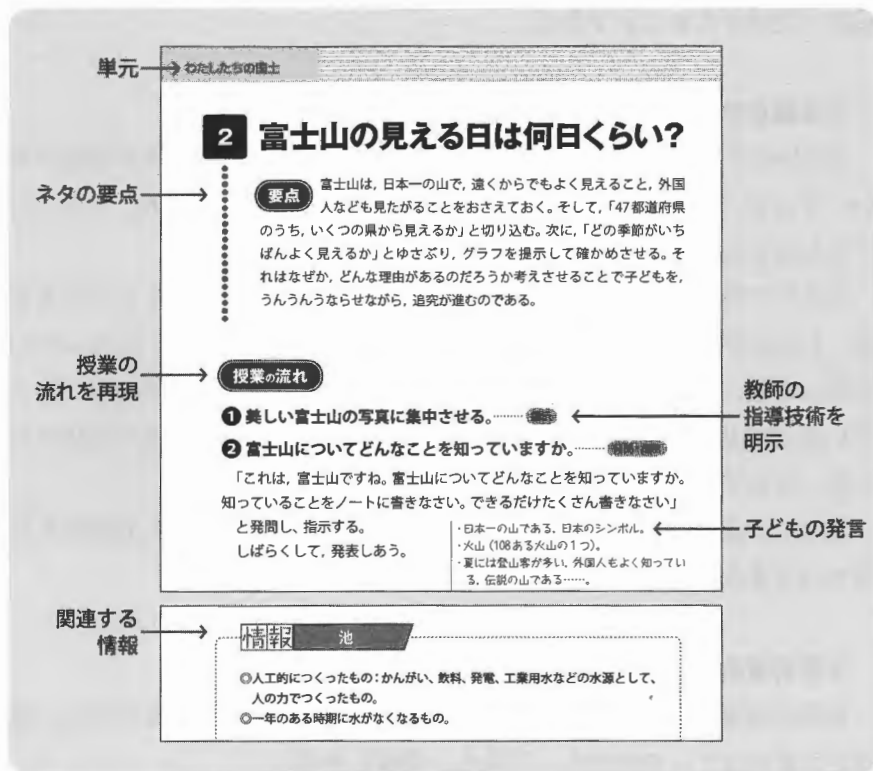
③学習意欲を引き出す

教育の究極の目的は、学習意欲を引き出すことではないだろうか。意欲さえあればどんな努力も、工夫も、挑戦もする。

意欲を引き出すには、何といてもおもしろい教材（ネタ）が必要なのである。

本書では、「指導する」ということにも重点をおいて各項目でなるべく詳しく述べている。これをもとにして工夫して指導し、意欲・やる気を引き出してほしい。

以上の5項目を毎時間意識して継続的に指導すれば、必ず1時間に1時間分以上の学力がつくはずである。これは、私が実証済であることを申し添えておきたい。



項目は、単元ごとにいくつかの教材（ネタ）があります。

はじめに「要点」を読み、大まかな内容をつかんでから「授業の流れ」で順序を頭に入れて授業を展開してください。

「授業の流れ」は、教師の指導を中心として、授業をどのように進めていけばよいかわかるように構成してあります。また、具体的な発問や提示内容だけでなく、その指導技術の種類を（提示）（発問）（指示）（説明）（確認）（ゆさぶり）などとして明示しています。

実践して子どもから挙がった発言は、原則として右側に寄せ、読者が授業を進める上での子どもたち反応の参考となるようにしています。

さらに「情報」として、その項目に関する知識を増やすための材料を添えました。資料も適宜、コピーして使えるようにしてあり、すぐに授業に臨めます。

「材料七分に腕三分」。七分の材料を用意しました。三分の腕を存分に発揮してユニークな、おもしろい実践を展開してください。

II

5年生の授業

わたしたちの国土
わが国の食料生産
わが国の工業生産
くらしを支える情報
身近な環境を守る

1 日本の気候の南北のちがいは？

要点

日本の気候は、南北によって大きくちがう。この気候のちがいを桜前線と紅葉前線を手がかりにしてつかませる。桜前線は南から北へ時速 25km で北上し、紅葉前線は北から南へゆっくり南下してくる。この学習によって、夏と冬はどこからやってくるか予想することができるようになり、楽しく学べる。生活とも結びついている。

授業の流れ

① 資料①をだまって提示する。…… 提示

桜前線の図をだまって黒板に提示する。

② この地図は、何を表わしているでしょう。…… 発問

ヒント「一日の平均気温が 10℃になると開花します」

- ・ひかんざくらとあるから桜でしょう。
- ・南から北へ日にちがのほっていつている。

③ 春は、どこからどこへ進んでいるのでしょうか。……

発問

桜とわかりましたね。すると、「春は、どこから、どこへ進んでいる」と言えますか。

- ・南から北へ



資料① 桜前線 1971年～2000年の平均(気象庁)

④ 春のおとずれ方が違うのはどうしてでしょう。…… 発問

同じ日付の線が、日本地図上で曲がりながら結ばれていることに注目させ、その理由を問う。

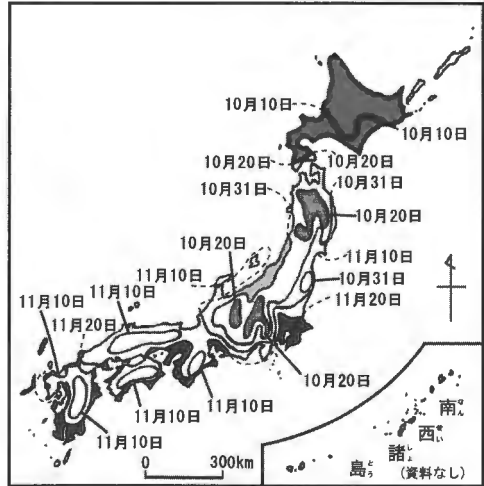
- ・高さの低い所が春が速い。
- ・高さの高い所が春が遅い。

5 この地図は何を表しているでしょう。…… 提示・発問

資料②を提示して、「この地図は、何を表わしているのでしょうか」と問う。

- ・北から南へ南下している。
- ・高い所が遅い。
- ・低い所が速い。
- ・桜前線と逆になっている。

★7°Cがポイントで、これを体験してから20日すると紅葉が始まるのです。



資料② 紅葉前線 1971年～2000年の平均 (気象庁)

6 桜前線と紅葉前線はどちらが早いでしょう。…… 発問

資料②が紅葉前線であると確認した上で、両方の前線の早さに着目して比べさせる。

- ・桜前線はゆっくり北上している。
- ・紅葉前線の方が遅い。ゆっくり南下している。

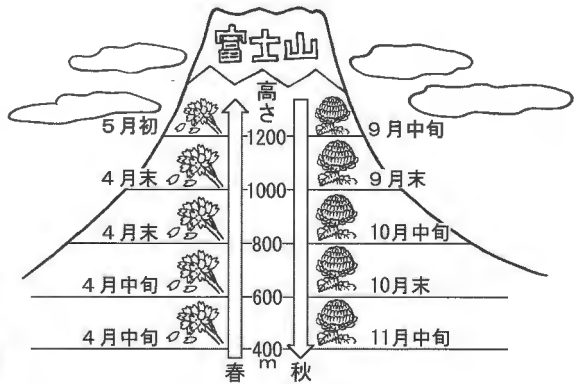
桜前線と紅葉前線は、ちょうど逆になっていることに気づかせ、日本の気候の変化を見るバロメーターになっていることに気づかせる。

7 紅葉のきれいな国は限られます。

…… 説明

日本、カナダ、ライン川のほとり (ドイツ)、韓国。最も長期間見られるのは日本です。外国からも見に来ます。

高さに直してみると、桜は下→上 きくは上→下。



2 富士山の見える日は何日くらい？

要点

富士山は、日本一の山で、遠くからでもよく見えること、外国人なども見たがることをおさえておく。そして、「47都道府県のうち、いくつの県から見えるか」と切り込む。次に、「どの季節がいちばんよくよく見えるか」とゆさぶり、グラフを提示して確かめさせる。それはなぜか、どんな理由があるのだろうか考えさせることで子どもを、うんうんならせながら、追究が進むのである。

授業の流れ

① 美しい富士山の写真に集中させる。…… 提示

② 富士山についてどんなことを知っていますか。…… 発問・提示

カレンダーなどに使われた美しい富士山の写真を、だまって黒板に提示する。子どもの目が集中する。「美しい！」などの声も出る。

これは、富士山ですね。富士山について知っていることをノートに書きなさい。できるだけたくさん書きなさい。

しばらくして発表し合う。



資料① 富士山の見える県
(NHKクイズ面白ゼミナールの調査)

- ・日本一の山である、日本のシンボル。
- ・火山（108ある火山の1つ）
- ・夏には登山者が多い、外国人もよく知っている。伝説の山である。

★伝説を調べるように導く。

③ 富士山は、日本一高い山で、しかも、美しい山で、遠くからでもよく見えます。…………… 確認

④ 47都道府県のうち、富士山の見える県は、何県ぐらいあるでしょう？ |・(予想) 5~10県くらい

⑤ 「富士山の見える県」(資料①)を提示する。…………… 提示

なんと21もの県から見えるのである。まず、これに驚く。日本の半分近くの県から見えるのだから。

⑥ 富士山の見える県を、ノートに書きなさい。…………… 指示

これで県名の復習をする。

⑦ どの季節がいちばんよく見えると思いますか？…………… 発問

春夏秋冬のいつがいちばんよく見えるか問いかけて予想をたてさせる。できるだけ理由も挙げさせる。グループで話し合い、ノートさせてから発表させると、多様な予想がある。東京の子どもは、経験的に「冬」がよく見えることを知っているが――。

⑧ 冬に富士山がよく見えるわけを考える。…………… 提示

予想が出そろったところで、だまって「富士山の見えた月別日数」(資料②)を提示する。

子どもたちは、グラフを見て驚く。こんなに夏と冬で差があるのかと。そして、「冬によく見えるのはなぜか」、逆に「夏見えないのはどうしてか？」といった問題を鮮明にもち、予想を立てはじめる。

「冬の季節風が、空気を浄化することによってよく見える」こと、夏見えないのは、風向きが異なる(北西の風)ことに気づかせる。

- ・冬よく見えるのは、冬の季節風が、空気をきれいにしているのでは。
- ・冬は公害が少ないのではないか。
- ・気温が低いとよく見えるのではないか。
- ・夏見えないのは、京浜工業地帯のよごれた空気を富士山の方へおしやるからではないか。

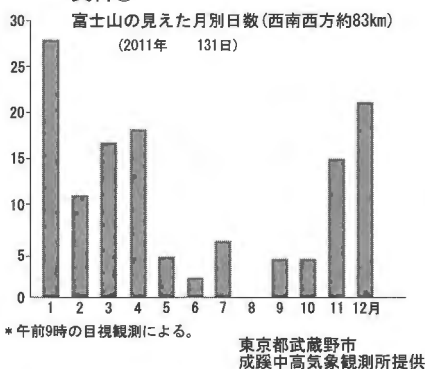
1983年には84日しか富士山は見えなかったのに、2010年には115日見え、2011年には131日見え、新記録をつくった。東京の西方の大気がきれいになっている証拠である。1965年にはわずか22日しか見えなかったのだから。

⑨ 自然の力には、どんなものがあるでしょう。…… 発問

季節風が、日本を浄化していることがわかったが、ほかに、日本の国土をきれいにしている自然の力には、どんなものがあるでしょう？

- ・ 雨—日本は雨が多い。だから日本は美しい。
- ・ 川—湖、池、川はきたないものを流す。
- ・ 山—森林、林、街路樹、庭木。
- ・ 土（地質）
- ・ 海流—4つの海流。

資料②



◆ 発展

⑩ 日本に富士山はいくつあるでしょう？…… 発展

資料③を提示する。なんと72もあるのだ！（地図で確認できるもの）日本人が、いかに富士山にあこがれ、富士山を愛しているかわかる。富士山のない県は、いくつもないのは驚きに値する。

⑪ ベストセラー「富嶽三十六景」から何がわかりますか。…… 発展

「葛飾北斎の『富嶽三十六景』が江戸時代にベストセラーになったということから、どんなことがわかりますか」と問う。

- ・ 江戸時代の人々も富士山に憧れていた。
- ・ 富士山を見る、登山するのを楽しみにしていた。
- ・ 暮らしが豊かになっていた。

- ①利尻富士
- ②知床富士
- ③阿寒富士
- ④北見富士
- ⑤美瑛富士
- ⑥蝦夷富士
- ⑦南部片富士
- ⑧出羽富士
- ⑨吾妻小富士
- ⑩会津富士
- ⑪田村富士
- ⑫榛名富士
- ⑬新湯富士
- ⑭芳賀富士
- ⑮生瀬富士
- ⑯上総富士
- ⑰八丈富士
- ⑱三浦富士

- ⑲越後富士
- ⑳能登富士
- ㉑富士写ヶ岳
- ㉒越前富士
- ㉓若狭富士
- ㉔高井富士
- ㉕信濃富士
- ㉖信濃富士
- ㉗会田富士
- ㉘諏訪富士
- ㉙黒富士
- ㉚富士山
- ㉛下田富士
- ㉜日和田富士
- ㉝尾張富士

- ことの
- ⑳孤野富士
 - ㉑伊賀富士
 - ㉒近江富士
 - ㉓大和富士
 - ㉔紀州富士
 - ㉕丹羽富士
 - ㉖有馬富士
 - ㉗小富士山
 - ㉘播磨富士
 - ㉙播磨小富士
 - ㉚はりま富士
 - ㉛淡路富士
 - ㉜和気富士
 - ㉝備前富士
 - ㉞児島富士

- のしろ
- ㉟社富士
 - ㊱安芸の小富士
 - ㊲白耆富士
 - ㊳浅利富士
 - ㊴長門富士
 - ㊵周防富士
 - ㊶大島富士
 - ㊷讃岐富士
 - ㊸伊予富士
 - ㊹伊予の小富士
 - ㊺大洲富士
 - ㊻介良富士
 - ㊼小富士
 - ㊽筑紫富士
 - ㊾伊万里富士
 - ㊿藤津富士
 - 1 小富士山
 - 2 相浦富士
 - 3 赤崎富士
 - 4 佐世保富士
 - 5 おぐに富士
 - 6 豊後富士
 - 7 小富士山
 - 8 薩摩富士



資料③ 日本中にある富士山

※外国にも「〇〇富士」と言われる山が今現在わかっているだけで59あります。

3 根室地方の人びとのねがいは、 どんなことか？

要点

根室半島の先端、納沙布岬^{のきつぷ}に行くと、まだ返還されない北方領土が、目の前に見える。ロシアの警備艇が、海の中の国境付近に停泊しているのが目に入り、国境のきびしさを感じさせられる。根室地方の人々は、こんぶ漁で生計をたてる人びとが多い。こんぶ漁をする人びとを中心に、根室地方の人びとはどんなねがいをもっているかさぐる。それは、「平和」である。平和でなければ、こんぶも魚もとれないし、第一安心して生活できない。なにしろ国境のすぐ近くだからである。これは日本全体の問題でもある。

授業の流れ

① 根室地方の地図を提示して日本のどこかつかませる。……提示

- ・日本の北の市だ。
- ・北海道の東のはした。
- ・寒いだらう。

② 根室地方の人びとは、どんな仕事をして、くらしをたてているでしょう。……発問

- ・こんぶやさけなどが有名だから、漁業でくらしをたてているのではないか。
- ・牛乳とか、バターとかチーズなどの方が有名だから、酪農がさかんではないか。
- ・じゃがいもや、とうもろこしも有名だから、野菜づくりでくらしをたてている人が多いだらう。

などと、経験にもとづいたことを挙げてくる。

③ 子どもたちの発表の裏づけをする。……確認

こんぶ、こまい（干したもの。スーパーに売っている）、牛乳の箱などを提示して、子どもたちの発表の裏づけをしてやる。

根室半島は根室市の西部・別海町を中心とした地域は酪農中心であることを話す。

こんぶや魚をとって、あるいは、それを加工して暮らしをたてている人が多いことに気づかせる。



④ 写真を提示しながら、こんぶ漁について説明する。

「夏に行くと、長いこんぶをつるして干したり、海岸に帯のように並べて干しているのに出会います」と、こんぶ漁について説明する。

写真は道北・利尻島でこんぶを干す風景。干している人が見えますか？（利尻富士町役場提供）

情報 根室地方のこんぶ漁

根室地方のこんぶ漁で生計をたてている人びとは、毎年、なにがしかの入漁料（1船いくらというように。毎年、ロシア側と交渉して、入漁料が決まる）を支払って、ロシア領海にこんぶをとりに出かける。

日本領海内ではすでにとりすぎのため、思うようにとれないからである。

ロシア領海の方がよくとれるので、お金を払っても、結局、こちらの方がもうけが多くなるからである。

入漁料とともに、こんぶをとってよい期間も決められている。

⑤ 根室地方のこんぶや魚をとって暮らしをたてている人びとのねがいは、どんなことでしょう。

- ・「こんぶや魚がたくさんとれることをねがっている」という。
- ・ロシアの領海でとっている。

その通りである。さらに、「では、たくさんとれるようにするには、どんなことが必要か？」とつつこむ。なんとといっても「平和」でなければ、国境付近は危険で漁業できない。子どもの目が開く。

★平和は日本、いや世界の問題である。

4 流氷は「海のフトン」って本当か？

要点

オホーツク海に流氷がやってくると、漁船は陸にあげられ、冬眠に入る。大きな船は、太平洋や日本海に漁に出かけるが、ほとんどの漁民はしごとを休む。3か月近い休漁は、漁民の生活に大きな影響を与えている。流氷は、年によって沿岸のホタテ養殖のかごをそぎとったり、コンブの若い芽をこすりとって。大きな損害を与えたりする。漁民にとってやっかい者であったが、近年考え方が変わってきた。流氷のきている間漁を休むことが、魚のとりすぎを防ぎ、オホーツク海の海の資源を守ることになっていると考えるようになったのだ。流氷の見方を変えるネタである。

授業の流れ

① これは何を表わしているでしょう。……… 発問

流氷のくる所を提示し、考えさせた後に、地図を配布し、教科書や参考書を見て、流氷のくる海岸に、赤く色を塗りなさい」と指示する。



流氷のくる所

- ・流氷は、北海道のオホーツク海側にやってくる。
- ・根室半島の北側だけ、流氷がくる。
- ・クナシリ島も北側だけ流氷がくるようだ。

★「流氷の旅」の話をする。

流氷が北海道のオホーツク海沿岸に姿を見せるのは、毎年1月中旬頃である。この流氷の誕生した所は、オホーツク海の北にあるシベリアのシャントルスキー湾の近くである。11月中旬頃のことである。

海水の塩分は、約3.5%あるため、氷点下1.8℃にならないとおおらない。

これが、海流と季節風によって、サハリンぞいに南下してくる。

誕生から2か月、1000kmの旅をして、その間にしだいに成長し、流氷帯に近づいてくる。

② 流氷がきて、海にぎっしりたまったら、どんな困ることがあるでしょう。…… 疑問

- ・ 漁ができない(1~3月まで3か月間) → 収入がへる。
- ・ コンブやホクテ養殖などに被害を出す。
- ・ 気温がものすごく下がり、寒くなる。
- ・ 過去、流氷のため遭難した船は、239隻あり、51人が死亡した。

③ 流氷がくると困ることだけではなく、よいこともあるのではないか。…… ゆさぶり

- ・ 流氷がくると漁を休む → 魚のとりすぎを防ぐ
 - ・ 流氷がオホーツク海のプランクトンをふやしている
 - ・ 流氷を見物にくる人(観光客)がいる。オーロラ号という観光船がある。
- 「海のフトン」の役目をしている。

流氷が冬の海を守り、魚やこんぶ、を育てを担っていることに思いいたらせる。

★流氷が冬の「海のフトン」の役目をしているため、とりすぎを防ぐことになっている。